議会だより あしやです

NO. 193
平成29年5月15日発行
福岡県芦屋町議会

もくじ

3月定例会

□新　体　制　Ｐ２～
□２９年度こんなことやります　Ｐ４～
□６人が町政を問う（一般質問）　Ｐ１４～
□町かどインタビュー　Ｐ２２～

芦屋小学校の桜の木の付近で遊ぶ児童
（平成２９年４月７日撮影）

第2回臨時会

第35代議長に小田氏、副議長に内海氏を選出

第2回臨時会が、平成29年4月7日に1日限りの会期で開催されました。

この会期で、申し合わせによる2年に一度の議長選挙が行われました。議長選挙の結果、小田議員が最多得票で当選し、副議長には内海議員が指名推薦により当選しました。各委員会等の委員については、次のとおり決定しました。

議長　小田　武人

議員各位のご推挙により、議長に就任することとなり、まことに光栄に存じます。私は、全身全霊を打ち込んで事にあたり、公正を旨とし、議会の円滑なる運営をはかり、芦屋町のますますの発展と、地方自治の振興の為に、全力をつくす所存でございます。

しかし浅学非才の身であり、議長の重責を全うするためには、町民の皆様のご支援とご協力を、心からお願い申し上げまして、就任のあいさつとさせていただきます。

副議長　内海　猛年

議会広報常任委員会

委員長　川上　誠一
副委員長　内海　猛年
委　員　妹川　征男
委　員　刀根　正幸
委　員　今田　勝正
委　員　松岡　泉

議会運営委員会

委員長　横尾　武志
副委員長　今田　勝正
委　員　松上　宏幸
委　員　辻本　一夫
委　員　貝掛　俊之
委　員　妹川　征男

福岡県介護保険広域連合議会

川上　誠一

民生文教常任委員会

所管事項：健康・こども課、住民課、環境住宅課、福祉課、地域づくり課、学校教育課、生涯学習課

副委員長
松岡（まつおか）　泉（いずみ）

委員長
貝掛（かいかけ）　俊之（としゆき）

川上（かわかみ）　誠一（せいいち）

横尾（よこお）　武志（たけし）

内海（うちうみ）　猛年（たけとし）

辻本（つじもと）　一夫（かずお）

総務財政常任委員会

所管事項：企画政策課、財政課、総務課、税務課、都市整備課、競艇事業局、会計課、監査および議会事務局の所管に関する事項

副委員長
今田（いまだ）　勝正（かつまさ）

委員長
松上（まつがみ）　宏幸（ひろゆき）

田島（たじま）　憲道（けんどう）

小田（おだ）　武人（たけと）

刀根（とね）　正幸（まさゆき）

妹川（いもかわ）　征男（いくお）

人　事

教育委員の任命（満場一致・同意）

教育委員1名が欠員となっていたため、新たに本田幸代氏が任命されました。

監査委員

刀根　正幸

遠賀・中間地域広域行政事務組合議会
行政事務組合議員

横尾　武志
辻本　一夫
松岡　泉

3月定例会

第1回定例会が、平成29年3月6日から16日までの11日間の会期で開催されました。7・8日に行われた一般質問では、6人の議員が登壇しました。条例、補正予算、新年度予算など29議案が上程され、すべての議案が可決されました。

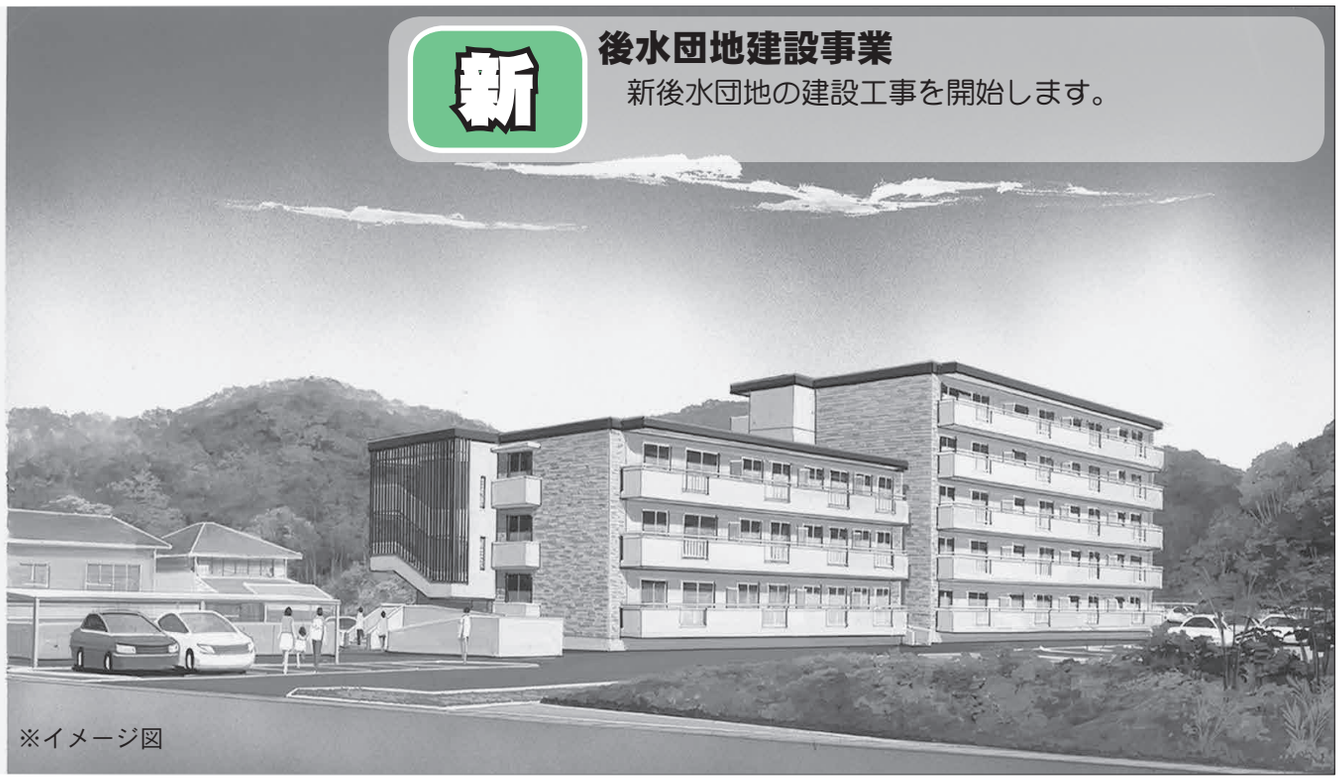
チャレンジショップ出店事業

海浜公園内にチャレンジショップ「ＨＡＳＡＭＩＹＡ」をオープンしました。

２９年度 なことやります

令車、第三分団ポンプ車購入

地域防災力の維持・強化のため指令車と第三分団消防ポンプ車を更新します。



新 後水団地建設事業

新後水団地の建設工事を開始します。

※イメージ図

レ ジャープール整備事業

アクアシアンの流水プールの改修工事をします。

議 会中継システム

議会を録画放送するシステムを導入します。

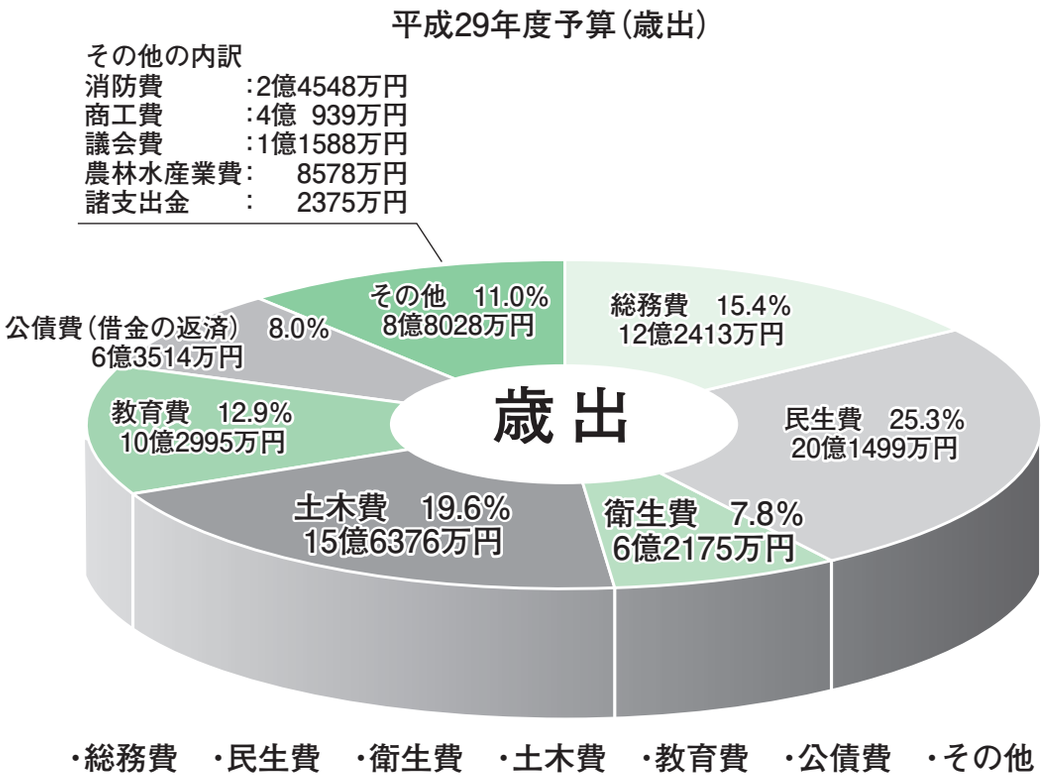
中 学校にエアコン設置

普通教室にエアコンを設置します。

充実させます

万円（前年度比 8.7％増）

一般会計歳出（使いみち）



29 年度の予算状況

※ 100 万円未満　四捨五入

会　計　名	予　算　額	前年度比
一般会計	79 億 7000 万円	8.7％
地方独立行政法人芦屋中央病院貸付金特別会計 注 1	36 億 7100 万円	171.7％
国民健康保険特別会計	20 億 8900 万円	1.7％
後期高齢者医療特別会計	2 億 3600 万円	10.8％
国民宿舎特別会計	3 億 200 万円	131.1％
給食センター特別会計	1 億 3600 万円	▲ 6.0％
モーターボート競走事業会計	880 億 7800 万円	10.1％
公共下水道事業会計	7 億 2400 万円	0.5％

※注１　地方独立行政法人芦屋中央病院貸付金特別会計
　病院が借り受ける過疎債や病院債を町を経由して病院に支出する会計。

29年度予算

教育環境を

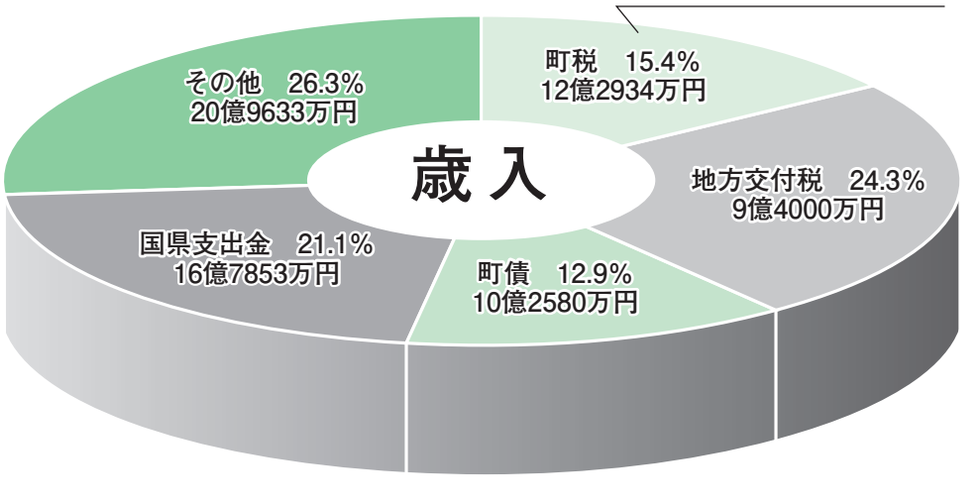
一般会計　79億7000

一般会計歳入（財源）

平成29年度予算（歳入）

自主財源･･･ 30億754万円（38%）
依存財源･･･49億6246万円（62%）

町民税　　:5億7314万円
法人税　　:　3689万円
固定資産税:4億6353万円
軽自動車税:　3769万円
たばこ税　:1億1809万円



・町税　・地方交付税　・町債　・国県支出金　・その他

中学校にエアコンを設置し、教育環境を充実させます

昨年は山鹿小学校の全クラスと芦屋小学校・芦屋東小学校の普通教室にエアコンを設置しましたが、今年は2小学校の特別教室と中学校の普通教室にもエアコンを設置します。

そのほかの29年度新規事業及び主な事業は次のとおりです。

29年度　新規事業及び主な事業（10万円未満　四捨五入）

- 【新規】チャレンジショップ事業　１３０万円
- 【新規】国民宿舎特別会計繰出金（建設事業）　１億９６００万円
  （マリンテラスあしや空調設備等改修工事）
- 【新規】総合体育館等施設改修設計事業
- 【新規】山鹿保育所遊具設置工事
- 【新規】緑ヶ丘保育所空調設備など改修工事
- 御廟所墓地階段整備工事
- 中央病院運営費負担金　４０２０万円

29年度一般会計予算
（賛成多数・可決）

質疑

◆コンビニ収納事務

問 コンビニ収納事務導入業務委託の内容は。

答 来年4月から全国のコンビニエンスストアで町税を納付できるようにするための準備である。

◆防犯カメラ

問 現在の防犯カメラの設置台数と今後の予定は。

答 現在4カ所に設置しており、29年度2台の設置を予定し、計6台となる。今後の設置台数は未定である。

◆チャレンジショップ

問 チャレンジショップの事業出店者支援及び店舗リース料の内容は。

答 現在、海浜公園内に出店する事業者を募集している。出店事業者に対しアドバイスを行う。

また、店舗リース料は店舗の年間の借り上げ料である。

◆総合体育館施設

問 総合体育館施設改修事業設計委託の内容は。

答 当該施設は老朽化が進んでいる。災害時の避難所に指定されており、長寿命化の処置が必要である。コミュニティエリアの屋根、ライトのＬＥＤ化、外壁、床、中央グランドの外灯、緑の広場の給水設備等の改修のための設計委託である。

改修を予定している総合体育館

◆チャレンジキャンプ

問 チャレンジキャンプとはどういったものか。

答 ボランティアキッズの入門編として計画するものである。長期活動に参加できない子ども達のために小学校4年生以上を対象として1泊2日、親子12組で計画を予定している。

◆ＰＣＢ処理

問 ＰＣＢの処理については27年3月の時点で全て完了している旨の報告があったが、今回の計上の経緯は何か。

答 27年11月に芦屋小学校体育館倉庫内にＰＣＢ機器を格納したドラム缶4本が発見されたため約2500万円をかけて処理するものである。

◆80億円の予算規模は膨らみすぎではないか

問 予算規模が約80億円とかなり膨らんでいる。競艇から6億円を繰り入れているが、その他に過疎債も借り、財政調整基金を6億円も取り崩すこととなっているが、財政当局としてどのように考えているのか。

答 後水住宅建設事業、小中学校空調工事、中学校プール改修工事などの投資的経費によるもので予算規模が膨らんでいるが、28年度決算余剰金などを再度、財政調整基金に戻し入れするため実際の不足額は2億円未満と考える。

しかしこの様な状況を改善するためには事業の見直し等を検討していかなくてはならない。

反対討論

【指定管理者制度導入は公的責任の放棄である】

川上誠一議員

本予算は後水住宅の建て替えや小中学校のエアコン設置、子育て支援など住民の願いを反映している面もある。

しかし、重大な問題として第1に国の進める「集中改革プラン」を推進し、職員の非正規化を進め、長時間労働を強いており、休職者が周辺自治体より多くいる。

また、更なる指定管理者制度の導入を進めることは公的責任を放棄するものである。

第2に「介護を受けたくても受けられない」矛盾を生んでいる介護保険制度は認められない。

第3に教育では就学援助の基準の抜本的な見直しと拡充を求める。

【通学費補助の見直しをするべきである】

妹川征男議員

小中学校通学費補助金として24万円が計上されているが、粟屋・大城区の児童は遠隔地と交通量が激しいためバス通学を強いられ、徒歩通学の権利が保障されていない。したがって、バス通学の定期代は半額でなく、補助規定を改正して全額補償するべきである。

高校のバス通学費補助について、バス通ができず、自転車通学や保護者による自家用車送迎をせざるを得ない生徒たちが多数いる。したがって補助規定を改正して、それらの生徒に対する通学援助などに充てる予算にすべきである。高校の場合、通学とはバス通に限らなくてもいいのではないか。

国民宿舎特別会計予算

（満場一致・可決）

質疑

問 約2億円をかけて大改修を行うが、31年度の起債完済後に新たな改修は考えているのか。

答 今回は各部屋の空調機、給湯器、大浴場の循環ポンプなどの設備改修を行う。

当分の間、大規模改修は考えていない。

改修工事予定のマリンテラス芦屋

モーターボート競走事業会計予算

（賛成多数・可決）

質疑

問 29年度予算に新たにファンサービス経費2100万円が計上されているが目的及び費用対効果は。

答 28年10月にキャッシュレス投票システムを導入した。カード会員になられた方が、舟券購入をした場合に電子マネーのポイント還元を行う経費である。（200円に対し0.5％）効果としては顧客確保、高額購入者の確保、運転経費の軽減、現金輸送コストの削減などがある。

行政報告

行政報告とは・・・
町長が議会を通じて町の重要な問題の経過等を住民に報告するものです。ここでは、平成28年12月から29年3月までにおける行政報告の一部を掲載しています。

さわらサミット

2月25日、26日の2日間、ボートレース芦屋で「第一回福岡ご当地さわらサミット2017in芦屋町」を開催しました。来場客は2日間で9000人を超え、エントリー店11店舗とオープン参加の遠賀漁協や食生活改善推進会、包括的地域連携協定の九州女子大学・九州女子短期大学のそれぞれ自慢のグルメは2日間ともすべて完売しました。

今後もサワラの魅力を地域内外に発信し、特産品開発や販路開拓、後継者の育成につなげるとともに、芦屋ブランドの1つになるよう取り組んでいきたいと考えています。

さわらサミット２０１７ｉｎ芦屋町

補正予算

歳入では、町税2300万円の増額と事業費確定による町債1億2300万を減額措置しています。また、歳出では職員退職手当金2100万円、国民健康保険特別会計の赤字補填のための繰出金5000万円などを計上するとともに、年度末の不用額を減額し、総額で2億5800万円の減額補正です。

（賛成多数・可決）

２８年度　税収の見込み
１２億３０００万円

・町民税　6億1500万円　・固定資産税　4億6000万円
・軽自動車税　3700万円　・たばこ消費税　1億1600万円

歳出の主な内容

補正のあった歳出の主な内容	補正額
職員退職金	２１００万円
国民健康保険特別会計繰出金（国民健康保険特別会計の赤字補填）	５０００万円
特定防衛施設周辺整備調整交付金事業基金積立金	１２００万円
社会福祉協議会補助金（福祉士人件費分）	２００万円
中央病院運営費負担金	６００万円

28年度一般会計補正予算（第5号）
（賛成多数・可決）

質疑

◆地域介護・福祉空間整備推進交付金

問　交付金の内容は。

答　相模原市の障害者施設殺傷事件を受けて防犯対策を強化するため、国が予算を措置したことから、芦屋町で一事業者が監視カメラを整備する。

◆三段キャビネット購入

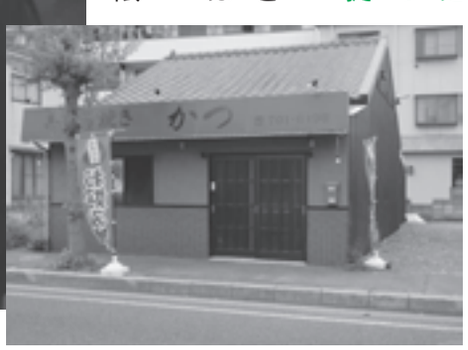
問　購入予算額690万円を減額されているがその理由は。

答　委託事業が諸事情で契約に至らなかった。
　そのため備品購入費を全額減額したが、事務が滞ってしまったことが原因である。

◆空き店舗活用事業補助金

問　空き店舗活用事業補助金は、12件分の計上に対して4件の実績であったが、この状況をどう捉えているか。

答　芦屋町は遠賀郡内と比較して創業支援対策は進んでいると考えるが、適用区域を商業地域に限定していたことが少ない原因と考えられる。今後、対象区域拡大について検討する。



空き店舗活用事業補助金を受けた　お好み焼き「かつ」

条例等

ボランティア活動センター開館時間・休館日を変更

＊　開館時間　　9時～17時30分
＊　休館日　　日曜日

ボランティア活動センター条例の改正
（満場一致・可決）

＊開館時間　午前9時30分から午後6時までを午前9時から午後5時30分に変更
＊休館日　月曜日を日曜日に変更

質疑

問　なぜ開館時間と休館日を変更したのか。

答　日曜日の利用者はもともと少なく、利用者から開館時間を早める要望が多かったため。

職員定数条例の改正
（満場一致・可決）

安定的な行政運営を行うため、休職者、休業者及び公益的法人等へ派遣される職員を定数外とします。

制度融資基金の設置、管理及び処分に関する条例の改正
（満場一致・可決）

まち・ひと・しごと創生総合戦略における「元気なあしや」をつくるため、制度融資の貸付対象条件から町内居住要件を削除します。

質疑

問　住所要件を削除された理由はなにか。

答　郡内も住所要件がなく、また町の活性化を図るために削除する。

町民会館内のボランティア活動センター

一般職の任期付職員の採用に関する条例の制定
（賛成多数・可決）

専門的な知識経験が必要な業務、一定期限内に終了することが見込まれる業務などに、任期を定めた職員を採用することができるようになります。（例　釜の里の鋳物師・保健師・総合体育館のトレーナー等）

質疑

問　正規職員の拡充で対応すべき住民サービスが任期付職員によって担われる恐れがあるのではないか。

答　学校関係や保健師といった専門性のある職種、現在嘱託職員として採用している職員が該当する。

地方独立行政法人芦屋中央病院中期計画変更
（賛成多数・可決）

27年4月に策定された芦屋中央病院中期計画（期間は27年4月1日から31年3月31日まで）が、評価委員会の意見により一部変更されました。

※主な変更内容
・通所リハビリテーションの開設
・入院患者数、入院単価の見直し
・営業収益及び医師給与等増額

請願

「被災者の住宅再建支援制度の抜本的拡充を求める意見書」の採択を求める請願書

（賛成多数・一部採択）

自然災害による被災者の住宅再建や生活と生業を取り戻すために、国に対して被災者生活再建支援法をはじめとした支援制度の抜本的拡充を求める意見書の提出を求める請願書です。

※請願事項

⑴被災者生活再建支援法にもとづく支援金の最高額を５００万円に引き上げること

⑵すべての被災者の住宅建設を支えるため、一部損壊も含めた国の支援策を抜本的に拡充すること

※提出された意見書請願事項のうち⑵のみ採択され関係省庁に提出しました。

反対討論

【内容が明確でないため、慎重になるべきだ】

松岡泉議員

真に被災者の実効ある生活の再建が図られ、最後の一人まで「人間の復興」が成し遂げられるよう、国などはどこまでも寄り添っていくべきである。本意見書は支援金試算の根拠や抜本的な拡充すべき支援内容が明確に示されていない。現在、国会等で支援の論議、調整が図られているところであり、この時期に芦屋町議会が意見書を提出することは慎重であるべきである。

賛成討論

【一部修正した意見書を提出するべきだ】

横尾武志議員

本請願については、国は被災者生活再建支援制度により、被災者再建支援金３００万円を支給しているが、東日本大震災等の災害との整合性や、国・地方自治体の限られた財政状況を考えると、支援金の引き上げには慎重な判断が必要である。

しかしながら、「全ての被災者の住宅建設を支えるため、一部損壊も含めた国の支援策の拡充を図ってもらいたい」との考えは理解できるため、早期実現を目指し部分採択の意見書提出には賛成である。

早い復興を待たれる被災家屋

人事

教育長の任命

（満場一致・同意）

教育長の中島幸男氏が29年3月31日付けで辞任したため、後任に三桝賢二氏が任命されました。

三桝賢二新教育長

人権擁護委員候補者の推薦

（満場一致・可決）

徳田徹氏の任期満了により、後任に佐藤一雄氏が推薦されました。

意見書

地方議員の厚生年金制度への加入を求める意見書

（賛成多数・可決）

12月定例会において継続審査となっていた「地方議員の厚生年金加入を求める意見書」は、国民の幅広い政治参加や地方議員の人材確保の観点など慎重審議を重ねた結果可決となりました。なお県内の状況は32町村の内28町村が29年1月25日時点で採択されています。採択されていない４市町村の中には芦屋町が含まれていました。

3月定例会意見がわかれた議案の賛否一覧

表決にあたり、意見がわかれた議案の賛否について掲載しています。掲載のない議案は、満場一致で可決されました。　　○賛成、×反対、退は退席を表しています。

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	賛成	反対	審議結果
議案名 / 議員名	松上	松岡	今田	内海	刀根	妹川	貝掛	田島	辻本	川上	横尾	小田			
芦屋町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	議長	9	2	可決
地方独立行政法人芦屋中央病院定款の一部変更	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	議長	10	1	可決
地方独立行政法人芦屋中央病院中期計画の一部変更	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	議長	10	1	可決
平成 28 年度芦屋町一般会計補正予算（第 5 号）	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	議長	10	1	可決
平成 28 年度芦屋町地方独立行政法人芦屋中央病院貸付金特別会計補正予算（第 1 号）	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	議長	9	2	可決
平成 28 年度芦屋町国民健康保険特別会計補正予算（第 1 号）	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	議長	10	1	可決
平成 29 年度芦屋町一般会計予算	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	議長	9	2	可決
平成 29 年度芦屋町地方独立行政法人芦屋中央病院貸付金特別会計予算	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	議長	9	2	可決
平成 29 年度芦屋町国民健康保険特別会計予算	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	議長	10	1	可決
平成 29 年度芦屋町後期高齢者医療特別会計予算	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	議長	9	2	可決
平成 29 年度芦屋町モーターボート競走事業会計予算	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	議長	10	1	可決
「被災者の住宅再建支援制度の抜本的拡充を求める意見書」の採択を求める請願書	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	議長	9	2	一部採択
地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書について	○	○	○	○	○	×	○	○	○	退	○	議長	9	1	可決
被災者の住宅再建支援制度の抜本的拡充を求める意見書について	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	議長	9	2	可決

一般質問　町政を問う

３月７、８日に議員６人が一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針等について所信を聞き、報告や説明を求め疑問点をただすことです。質問する議員は、事前に質問通告書を提出し、本会議において１人 60 分の制限時間内で質問を行っています。

議会だよりでは、質問した議員が自ら記事を作り掲載していますが、紙面の都合上、要約しています。一般質問の会議録は、議会事務局や芦屋町ホームページで閲覧できます。

◎：記事掲載あり　　○：記事掲載なし

ページ	質問議員	質問事項
15	川上　誠一	◎後期高齢者医療について ○国保の広域化について ◎子育て支援について
16	松岡　泉	◎自治区活性化の支援について ◎高齢者などのためのサービス窓口の整備について
17	妹川　征男	◎学校教育費の保護者負担軽減について ○芦屋中央病院の院外薬局、公募進捗状況について ◎職員の時間外労働（残業）の実態と休職者について
18	刀根　正幸	◎地域コミュニティの推進について
19	今田　勝正	◎高齢者対策について ◎病院問題について
20	田島　憲道	◎飼い主のいない猫の被害対策について ○観光拠点であるマリンテラスの現状について

就学援助の国の入学準備金が2倍になったが町はどうするのか

川上誠一（かわかみせいいち）

学校教育課長

準要保護世帯も入学準備金を、同様の対応をする必要がある

子育て支援について

議員　就学援助制度による要保護世帯の国の入学準備金が2倍になった。町が単独で行っている準要保護世帯についてはどうするのか。

課長　準要保護世帯への新入学準備金も同様の対応が必要と考えている。

議員　入学前支給は県内でも多くの自治体が進めているが町の対応は。

課長　北九州市など近隣でも入学前支給を始める自治体が増えている。29年度には再度検討する必要がある。

議員　就学援助の所得基準を下げ、就学援助を縮小した27市町村に芦屋町が上がっていた。文科省は影響の出ないように対応を求めたが、なぜ対応していないのか。

課長　町の就学援助の所得基準は生活保護の1・3倍から変えておらず、ほとんど影響はなかった。

議員　新たに申請した方が前の基準では受けられたが所得基準が下げられたことによって対象とならない方も出てくることになる。元の基準で対応すべきでは。

課長　町では通学費補助もスタートし、新入学準備費用の増額も検討している。郡内でも他町より認定しやすい基準となっている。所得基準を変える予定はない。

芦屋中学校入学式（H29.4.11）

後期高齢者医療

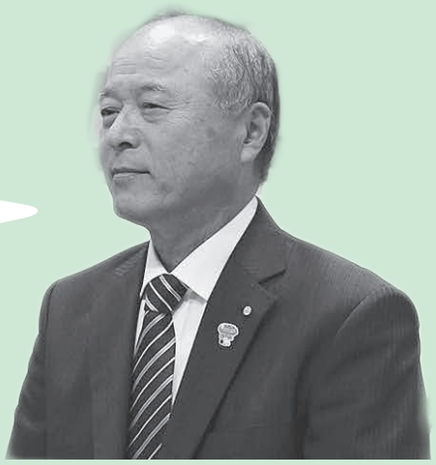
議員　保険料の特例措置が29年度からなくなるのか。

課長　29年度は特例措置の見直しにより、社会保険被扶養者の均等割額9割軽減は7割軽減に、低所得者に対する所得割額5割軽減は2割軽減となる。しかし、激減緩和措置が取られるので低所得者に対する均等割額は維持される。

議員　最終的には高齢者の負担は2倍から10倍となる。保険料の滞納など対策はどうするのか。

課長　今後の推移を見て考える。

高齢者などが相談しやすい環境にあるのか



松岡　泉

福祉課長

さまざまな問題を抱えているためワンストップ[注2]のメリットがある

自治区活性化の支援

議員　町は、自治区の喫緊の課題をどうのように捉えているのか。また、その要因をどう考えているか。

課長　全国的にも共通している課題は、加入率の低下及び担い手不足である。これらの要因としては、区への加入が任意加入であること、地域における課題の増大や住民の高齢化による担い手の減少で多大な負担感を感じている方が多いことなどが挙げられる。

議員　自治区の人材育成に伴うカリキュラムの作成支援や育成のための講演会、研修会の斡旋はできないか。

課長　人材の掘り起こしは自治区が主体となって行い、自治区活動の中で経験を経て、地域が求める人材の育成を図って頂きたい。自治区の支援については、今後とも区長会等とも協議しながら支援を継続していきたい。

高齢者などのためのサービス窓口の整備について

議員　地域包括支援センターにおいては新たな事業の増大が予想されるが、今の陣容で利用者に適切なサービスが提供できるのか。

課長　介護保険法の改正により、業務量が増えることが見込まれている。また、町の高齢者が増えることから、介護や医療、生活支援、権利擁護などの相談が多くなる。これらに対応するため、今後とも職員体制の見直し、計画的な業務執行や業務委託により必要なサービスを提供していきたい。

庁舎内の地域包括支援センター相談窓口

議員　地域包括支援センターの相談窓口は、正面出入口付近となっており、パーテーションの中で相談が行われている。環境的に問題があるのではないか。

課長　福祉課には、高齢担当者、生活困窮担当者や障がい担当者がいるので、利用者にとっては、ワンストップで相談できるメリットがある。訪問を含めて、ケース・バイ・ケースで相談の対応を行っているが、これで全てが完結するとは考えていない。

※注2：ワンストップ　多様な相談を一箇所ですませるようにすること

妹川征男（いもかわいくお）

過労死ラインを超えている職員に対して町長の見解は

町　長

芦屋町だけの傾向ではないが、早く帰るよう指導していきたい

学校教育費の保護者負担軽減について

議員　義務教育での教科書は昭和44年から無償給与となったがその趣旨は。

教育長　義務教育教科書無償給与制度は、憲法第26条に定められた義務教育無償の精神をより広く実現する施策としている。教科書を無償で給与するという、未来を担う児童・生徒に対し、国民全体の期待を込めて、実施されたものである。

議員　ドリル、テストなどの教材費、図工等教材費、社会科見学、PTA会費、給食費、修学旅行等の積立金など、保護者が学校に納める学校教育費（校納金）はいくらか。

課長　小学校6年間で約42万円。中学校3年間で約33万円。制服、体操服、バッグ等で約6万円。9年間で約81万円の保護者負担がある。

議員　教科書が無償化されたように、授業の中で使用する教材、テスト費などは、「芦屋の子どもは　芦屋で育てる」という理念からして、公費負担にして無償化、または補助すべきと考えるが、町独自の施策はあるのか。

課長　学校教育費の保護者負担軽減という趣旨に基づいて27年10月から始めた通学費補助がある。

新6年生が使用している教材の一部

職員の時間外労働の実態

議員　時間外労働時間数および残業手当総額は。

課長　24年度は11，853時間で約2，529万円。27年度は、21，827時間で約4，507万円。

議員　一番多い課はどこか。年々増加する原因は。

課長　27年度は地域づくり課が1番多く、26年度よりあしや砂像展が始まったため増加している。

議員　過労死ラインと言われる月80時間以上働いている人が延べ35人。100時間以上の人が延べ17人いることに対してどう考えるか。

町長　国が法律等を変えるため、芦屋町だけの傾向ではないが、早く帰るように指導していきたい。

地域コミュニティの要となる自治区担当職員制度について

刀根　正幸（とね　まさゆき）

地域づくり課長

これから地域の皆様との交流をとおして将来的なあり方を検討する

地域コミュニティの推進

議員　地域コミュニティ推進の要となる自治区担当職員制度の現在までの成果と自治区加入率を尋ねる。

課長　自治区担当職員制度は26年８月からスタートし、26年度はステップ１で14の行事に77名、27年度は31の行事に164名、28年度からステップ２の取り組みが８自治区、行事には125名が参加している。地域の方との交流など毎年参加することにより、成果は期待できる。

　しかし自治区加入率は24年は62．１％で、27年度まで横ばいを維持していたが、28年度には59．１％と下がっている。

　今後はステップ３において将来的な地域の在り方の検討や計画の策定を自治区の方と一緒に取り組まなければならないと考えている。

議員　地域コミュニティの推進は自治区が中心になるとは思う。自治区の活動を支える団体の代表例として婦人会や老人会・子ども会などがある。

　ついては健康の分野から現状と今後の方向について尋ねる。

課長　芦屋町の特定検診の受診率は26年度は31．７％、27年度は31．２％と国が示す60％や町の実施計画の目標値33％に比べ低い状況である。住民の皆様の健康保持のため、各地区に出向き特定検診、がん検診の普及に努めている。28年度は30自治区のうち24区で実施できた。健康には生活習慣のみならず、地域の絆やつながりも影響すると言われている。

　今後も地域コミュニティと協働での特定健診、がん検診の受診率向上を推進していきたい。

議員　地域コミュニティの推進について福祉の分野から現状と今後の方向性について尋ねる。

課長　老人会は地域を支える団体で29年に１老人クラブができる予定である。また、人とのつながりを深め高齢者など気になる方の見守り、介護予防など安心して生活できる町を目指し、全区でサロン事業を普及していくことを目指している。

地区の会議風景

買物難民の解消と対策とバスの便数は現状のままでよいか

今田勝正（いまだかつまさ）

環境住宅課長

29年度、策定している交通網形成計画の中で検討していく

高齢者対策について

議員 交通の便が悪いと町民から聞くが、買い物難民の解消と対策について尋ねる。

課長 買物難民の定義はいろいろな考えができる。芦屋町ではJR駅がないことから交通の便が悪いなどと言われることがあるが、平日、北九州市営バスは80便、芦屋タウンバスは70便弱運行している。遠賀郡内で比較しても非常に多くの便数が確保されているため、現状維持することのほうが重要と考えている。

議員 高齢者の自動車事故防止として、運転免許自主返納支援について考えはあるのか。

課長 自主返納支援は考えていないが、今年度策定している交通網形成計画の中でも高齢者、障害のある人への割引制度等について検討している。今後も交通事業者や地域住民等と連携しながら高齢者等の利用促進につながるような事業を進めていきたい。

病院問題ついて

議員 病院の現状について尋ねる。

課長 減少傾向にあった外来患者数は現在医師の確保によって回復傾向にある。29年度4月からは外科・整形外科・糖尿病内科とさらに3人の医師確保の目処がたっている。また、現在は臨時の整形外科医が常勤となってもらえる予定。引き続き外来患者の増加を目指して病院一丸となって努力していく。

建設工事中の中央病院

議員 多くの住民が病院のあり方に疑問を持っていると思う。説明が不十分と考えるが、どういう対処をするのか尋ねる。

課長 今まで住民説明会や広報誌・ホームページの掲載、3公民館・役場・病院での閲覧など広く周知に努めてきた。今後も工事の進捗については病院ホームページや広報誌などで住民周知を行っていく。

飼い主のいない猫への避妊・去勢手術の理解と取り組みは

環境住宅課長

動物基金という補助金があるので今後啓発していく

田島憲道（たじまけんどう）

愛護動物の保護と共に生きる

議員　今、空前の猫ブームの陰では、深刻な問題も起きている。飼い主のいない猫（外猫）を町内でも見かけるが、現状をどのように把握し、またその対応策を尋ねる。

課長　猫は犬と違い、法律で登録が義務づけられていないため、把握はできない。被毛の飛散や糞尿の被害、発情期の鳴き声、庭を荒らされる等の苦情相談がある。猫は愛護動物なので、外猫をむやみに捕獲し処分することはできない。現状は、餌を与えるので猫が集まり、近辺に被害がでる。外猫をこれ以上増やさないために、餌を与えないよう声をかける事や啓発看板を設置する。

議員　猫は、中国から仏教の経典と一緒に持ち込まれた。経典や米を食い荒らすネズミを、猫は駆除するので、魔除けであった。しかしながら、今は、ゴミをあさったり、車にひかれたりと。例えば、不慮の事故で死んでしまった猫を、芦屋町は引き取っているが、その数は。

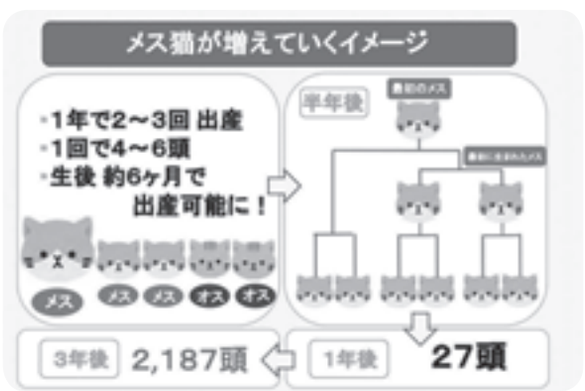
課長　役場に連絡があり、引き取りに行っている。前年が１４０匹、28年度現在で１１０匹程ある。

議員　全国で、年間約10万匹の猫が殺処分される。その内訳の16％、１万４０６１頭が飼い主からの持ち込みだ。子猫が5、6匹生まれて飼えなくなり、どうしようもなく持ち込む。役場では、このように生きた猫を持ち込むケースはあるか。

課長　子猫は保護し、保健所へ持っていく。愛護団体等が引き取り、飼い主を見つけてくれる。親猫になるとなかなか飼い主が見つからない状況だ。

議員　飼い主のいない猫の避妊・去勢手術の補助金事業への理解と取り組みを尋ねる。

課長　補助事業としては動物基金というのがあるので、今後ホームページや広報などで啓発していきたい。



猫算　（※雄猫は加算されていません）

総務財政・民生 文教常任委員視察レポート

人材育成の取り組み
～栃木県佐野市～

日　程　2月6日から8日
視察先　栃木県佐野市
視察者　BOATRACE振興会
　貝掛俊之・今田勝正
　横尾武志・小田武人
　辻本一夫・田島憲道

佐野市

佐野市には退職者の増加による組織力低下や人事評価結果の処遇反映の活用、財政が厳しい中での研修の継続、職場の環境整備の4つの課題があります。

そのため現在、人材育成に力を入れています。有能な人材を確保するため、スポーツ採用・社会人採用・再任用職員・任期付職員の採用を行っています。また、女性職員の職域拡大や能力開発支援（接遇や意欲向上研修自己啓発費用の一部助成）、職場環境の充実（ワークライフバランスの推進）も行われています。

芦屋町も人材育成に取り組んでいますが、スポーツ採用などぜひ、検討すべきです。

佐野市での視察の様子

BOATRACE振興会

BOATRACE振興会では、ボートレース事業を実施している自治体の取り組みについて紹介を受けました。自治体ではボートレース事業による市への貢献や、その仕組みについて住民にアピールしています。芦屋町でもボートレース事業による町への貢献などをさらにPRする必要があると感じました。

認知症の予防・進行防止で気軽に集う居場所「ほっとカフェ」
～久留米市～

日　程　2月9日
視察先　久留米市
視察者　内海猛年・松岡泉
　松上宏幸・川上誠一
　妹川征男・刀根正幸

NPO法人城南健康ふれあい倶楽部が運営する「ふれあいホール」は27年より認知症の進行防止と予防で気軽に集う「ほっとカフェ」と放課後児童の安心で元気に過ごす「ふれあい倶楽部」が併設された地域の居場所づくりの施設です。

特に認知症カフェの取り組みはテレビや新聞でも取り上げられ、全国からも注目され多くの方が研修に訪れています。

ホットカフェの特徴は月曜日から金曜日の週5日開かれており、認知症の方だけでなく予防や心配な方、困っているご家族などを対象としていることです。

また、時間帯も10時から14時半まで行われており、自分の希望に合った時間帯に集うことができます。午後からの「楽しかクラブ」では健康麻雀・将棋・囲碁・パターゴルフなど色々なメニューがあり好きなことを自由に楽しむ時間となっていて、大変に喜ばれています。

行政との連携では、「認知症地域支援推進員」や「生活支援コーディネーター」との連携を強化しており、認知症の進んでいる方は「認知症初期集中支援チーム」に繋げています。

10年後には認知症と予備軍の高齢者が800万人になるといわれており、芦屋町でもこのような「認知症カフェ」を急いで整備することが必要だと感じました。

ほっとカフェでの視察の様子

議会だよりあしやです／発行●芦屋町議会　編集●議会広報常任委員会　〒807-0198 福岡県遠賀郡芦屋町幸町2-20　☎093（223）3579　印刷●阪本印刷株式会社

町かどインタビュー

春爛漫の季節となり、芦屋小学校の桜も満開になりつつありました。ここ数日は、天候が不安定で花見の方もまばらでしたが、地元区の浅井さんグループの皆さんが晴れ間を見て、花見のひと時を楽しんでおられました。ちょっとお邪魔して、児童との関わりや町への期待をお伺いしました。

Q 桜の咲く時期に感じることは。

A 桜の花を見ると、いつも「日本っていいなあ。」と思います。そして、新学期や入学式のことがすぐ思い起こされます。小学校新一年生がとても可愛らしく、ランドセルが大きく見え、微笑ましいのもこの時期ですね。

花見に来られていた皆さん

Q 地域と児童との関わりをどう見ていますか。

A 声を掛け合うことが大事だと思います。大人から、声掛けや挨拶をして、子どもたちの模範となるように心掛けるべきです。

Q 子育て支援はどうでしょうか。

A 町は、お金がないわりに中学生までの手厚い医療支援を行うなど、よくしてくれていると思います。

Q 町に期待することは何ですか。

A 町は高校通学援助もやってくれて有難いです。しかし、申請手続きが面倒ですので改善ができればと思います。

コミュニケーションの場である公民館が古く、手すりがなかったり、トイレが和式で不自由を感じています。お年寄りが出掛け易い環境づくりをお願いします。

芦屋小学校の桜

次回の定例会は　6月7日開会予定

本会議や委員会は、どなたでも傍聴できます。また、本会議は役場1階ロビーでライブ中継をしています。

※日程は変更になる場合がありますので、傍聴を希望する方は議会事務局にお問い合わせください。　（TEL 223-3579）

議員控室

1月1日付異動に伴い議会だよりを担当することになりました中山理恵です。今回の編集で住民の方にとって読みやすい構成についてとても悩みました。

今までの読者としての視点を活かし、委員の皆様と協力しながら、読みやすい編集をするよう努めていきたいと思います。

「議会についてこういう記事を載せてほしい」など、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

中山　理恵

【発行責任者】
議　長　小田　武人
【議会広報常任委員会】
委員長　川上　誠一
副委員長　内海　猛年
委　員　妹川　征男
委　員　刀根　正幸
委　員　今田　勝正
委　員　松岡　泉